

# 新任介護福祉士研修

公益社団法人 東京都介護福祉士会

〒135-0003 東京都江東区猿江1-3-7パーク・ノヴァ猿江恩賜公園102

## 助成事業の概要

### 実施目的

本事業は、介護福祉士が国家資格取得者として介護技術を学び、専門職としての士気向上、自己研鑽、勤務先への定着、サービスの質向上を促すものである。現在、急速な高齢化に伴う人材不足と介護職の離職率が深刻な課題となっている。現場では、介護福祉士、介護職員初任者研修修了者や無資格者など多様な人材が混在したまま量的拡大を続けており、サービスの質にばらつきが生じている。また、介護労働者の退職理由では「職場の人間関係に問題があったため」が最も多い。

（介護労働安定センター『平成26年度介護労働実態調査』）以上の点を踏まえると、職場での人材育成やサービスの質を保つことに限界があると考えられる。そこで、当会が本事業を実施することにより、介護福祉士が職場の枠を越えて相互の研鑽を図り、介護サービスの質向上に貢献することが可能となると考えている。当事業を行うことにより、介護人材の量・質を確保し、介護職の定着促進を図り、社会貢献を行うことが出来る。

### 時期

#### ●介護職の為の接遇・マナー研修

日時：平成30年8月19日（日）

10：00～16：00

会場：北とぴあ 第2研修室

#### ●シーティング研修会

日時：平成30年10月28日（日）

9：30～16：30

会場：ティアラこうとう 大会議室

### 内容

#### ●介護職の為の接遇・マナー研修

「オリエンテーション」「組織人としてのマナー」「介護職に必要な接遇」

#### ●シーティング研修会

講義・演習 地域包括ケアシステムのシーティングの位置づけを確認し、車椅子不良座位の体験、車椅子選定適合、移乗、姿勢、移動を含むシーティング・アセスメントを学ぶ。スライディングボード等を使ったベッドから車椅子への移乗を含むシーティング技術等。

## 事業の成果

#### ●介護職の為の接遇・マナー研修

本研修は、新任介護福祉士研修と銘打って行ったが、ベテランの介護福祉士も沢山ご参加いただいた。アンケートには「普段使っている尊敬語や謙譲語が間違っていたと気付いた。忙しく、疎かになっていたマナーについて振り返りが出来て良かった。」「自分自身の利用者様やご家族との距離感が時間の経過と共に近くなってしまっていることに気付いた。馴れ合いのような態度をとってしまっているが、節度と基本的なルールに則って相手を尊重した関わり方が必要であると感じた。」「丁寧にひとつひとつ説明して下さり、資料もたくさんあった為、頭に入りやすく、よく理解できた。参加型のグループワークの時間もあったので、自分達で話し合い、答えを出すことが出来た。これをきっかけに明日から利用者様との接し方を見直していきたい。反省すべき点がいくつもあっ

た。研修内容を施設に持ち帰り、職員同士で共有したい。」などの感想が多くあり、今まで疎かになっていたマナーについて勉強する機会となった。また、接遇をきちんと行うことは利用者様だけでなく、新人の介護職の教育にも良い影響がある。まずはベテラン介護職が接遇をしっかり行い、後輩にそれを伝え、施設や事業所全体の資質向上を目指していきたい。

### ●シーティング研修会

本研修は、会場にベッド・ティルトクライニング車椅子・スライディングシートを多数設置し、講義の後グループに分かれて実技を行った。実技を行うことにより、学びが深まった。アンケートでは「シーティングの大切さが分かった。それが全ての介護に繋がると感じた。」「シーティング姿勢を保つために、体にあった車椅子やクッションを選ぶ大切さがよく分かった。介護する側もされる側も、お互いに体に負担が無いように福祉用具を利用したいと思った。」「不良肢位からおきる様々な問題点が理解できた。」「経験年数が長いことも大事だが、新しい知識・技術にいつもアンテナを張り、取り入れる姿勢を示すことが必要。」などの感想をいただいた。受講生の満足度が高い研修となり、また同じ内容の研修を受講したいとの意見も多かった。利用者様の生活の質を高める為にも、新しい知識の吸収と職種との連携を図っていきたい。

## 成果の広報・公表

今回行った研修の様子や感想を、当会の会報誌に写真と共に掲載した。その一部を抜粋する。会報誌は全会員と関係団体に送付し、有意義な研修であったことを報告した。

### ●介護職の為の接遇・マナー研修

当研修は、公益財団法人日本社会福祉弘済会による平成30年度日社済社会福祉助成を受け、「新

任介護福祉士研修」として開催いたしました。研修は三部構成になっており「社会人としてのマナー」「組織人としてのマナー」そして最後に「介護職に必要な接遇」について勉強しました。第一に利用者様とご家族様のお気持ちを知る、これが大切であり重要である。私たち介護職に必要な接遇とは相手の立場や気持ちを配慮した心のこもった温かい応対をすること。そしてそれは利用者様の日常生活が安全な環境の中で、安心して心地よく生活していただくための私たちの接遇だと教えていただきました。アンケートには「利用者様への言葉かけの「言葉」の大切さを実感することが出来ました。明日から即実践できる研修でしたと感想をいただいております。

### ●シーティング研修会

10月心地よい秋晴れの日、「シーティング」について学びました。グループワークを中心とし、車イス・ベッドへの移乗方法を実践しながら繰り返し指導していただきました。実習の第一番が、身体寸法計測でした。座位で臀幅・下腿長・腋窩高などをメジャーを使ってお互いに計測していきます。身体寸法を測ることが、車イス選びの初歩です。ベッドから車イスへの移乗は、「持ち上げない！」介助がキーワードでした。ボディメカニクスを知り、本人の能力を活かし、スライディングボードを使うことで楽に移乗が出来ました。施設の利用者の一番の望みは、起きて美味しく食べることだそうです。起きることによって景色が変わり、刺激が多く入り、意欲が沸いて元気になる。「寝かせきり」にしないことが、自立支援につながります。この研修に参加して実感したことは、知識量は介護力につながるということです。介護職・リハ職・看護職・ケアマネ・福祉用具プランナー等多くの職種が連携し「シーティング・チーム」を作り、新しい介護環境を築くことを目標にしていきたいです。

## 今後の展開

2つの研修は、マナー・シーティングと介護職にとって重要なテーマだった。その為、当初の想定人数より多くの方にご参加いただき、有意義な研修を行うことが出来た。当会研修の受講料は、大体会員3,000円～4,000円、非会員は5,000円～6,000円となっている。対して本研修は会員500円、非会員1,000円であり、受講生の負担も少なかった為、沢山の方にお越しただけた。非会員の方に、当会の活動を知って頂く良い機会にもなった。

研修を行い感じたことは、介護職は資格を取得した後も勉強を続け、技術を磨き、利用者様やご家族との信頼関係を築いていかななくてはならないということ。また、現在の介護業界にとって、新任の介護職を育てることも重要である。職員のマナー・介護技術を高い水準に保ち、根拠のある介護を新人職員に伝えることで、施設全体のサービスの質が上がる。職員1人1人の介護技術がまちまちでは、新人職員はどのように業務を行うべきか悩み、離職に繋がってしまう。しかし、人手不足と多忙のなか、職場での教育が行き届かない部分もあると思われる。介護福祉士の資格取得後も勉強を続け、新しい情報を吸収することはなかなか難しい。

当会は、今後も介護職にとって有益な研修を行い、介護サービスの質向上をとおして広く社会貢献を行っていく所存である。